

野尻湖表層堆積物の粒度組成及び分布

Grain size composition and distribution of bottom surface sediments in Lake Nojiri, central Japan

菅井 一磨 [1]; 滝口 健 [2]; 青木 優作 [1]; 中西 俊貴 [3]; 井内 美郎 [4]; 近藤 洋一 [5]; 公文 富士夫 [6]

Kazuma Sugai[1]; Takeshi Takiguchi[2]; Yusaku Aoki[1]; Toshiki Nakanishi[3]; Yoshio Inouchi[4]; Yoichi Kondo[5]; Fujio Kumon[6]

[1] 早大・人科・環境; [2] 早大・人科・情報; [3] 早大 人科科学部; [4] 早大 人間科学部; [5] 野尻湖ナウマン博; [6] 信州大・理・物循

[1] Human Sciences, Waseda Univ.; [2] Humanscience, Waseda Univ.; [3] Human Sciences, Waseda Univ.; [4] Human, Waseda Univ.; [5] NM; [6] Environmental Sci., Shinshu Univ.

野尻湖表層堆積物の粒度組成及び分布

野尻湖の音波探査記録に関する最近の研究の結果、過去数万年間にメートルオーダーの湖水面変動があったことが推定されている。しかし現状では具体的な湖水面変動量を与える地球科学的証拠はない。本研究では野尻湖湖底表層堆積物を対象に、空間的な粒度分布を明らかにし、ボーリング試料との比較によって湖水面変動量を復元可能にするデータの取得を目的としている。

野尻湖において約 300 メートル間隔で表層堆積物を採取し、粒度組成を検討した。その結果、水深 16 メートル以浅の水域においては含砂率の異なる堆積物が分布するが、16 メートル以深では粒度はほぼ一定であることが明らかになった。このことから野尻湖において波浪の及ぶ深さは水深 16 メートルまでで、それ以深は懸濁運搬粒子のみが堆積していると考えられる。このデータをボーリング試料に適用すれば、野尻湖の湖水面高度の変遷が明らかにできる可能性がある。